

記譜プロジェクト「伝統音楽の記譜法からの創造」

2022 年度活動報告

本研究は 2019 年から引き続き実施しているものである。

主要なテーマは、中国の伝統楽器であり伝統音楽である古琴（琴・七弦琴）の記譜法と伝承の形態についての検討である。

古琴は中国の伝統楽器であるが、日本にも伝来し、平安時代と江戸時代を中心に演奏・継承されてきた。その楽器の特性から、独自の記譜を有してきた歴史があるが、従来の記譜法と近年の演奏方法、特に指遣いに関しては乖離があるのではないかと考えられる。そ

こで、2019 年度から、北京在住で中国の国家級非物質文化遺産古琴芸術代表性传承人である吳釗氏に講演等をしていただいている。

2019 年度は本学に招いて吳釗氏に講演していただいた。2020 年度も講演を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、来日が叶わなかったため、2019 年度に実施した講演の録画を編集した。

2021 年度も新型コロナウイルス感染症により来日できない状況であったため、吳釗氏が 2020 年に文化芸術出版社より出版された『古楽尋幽—吳釗音楽学文集』（ISBN：9787503968143）に掲載されている論文「試談古琴減字譜的創制問題」（古琴の減字譜の創造に関する試論）を翻訳した。

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の状況が改善せず、中国からの渡航が叶わない状況であったため、2021 年度に使用した吳釗氏の著書から、別の論文である「传统与现代——中国古琴艺术面临的挑战」（伝統と現代—中国の古琴芸術が直面する挑戦）を翻訳することにした。

当該論文は、「琴の現代化」または「琴の大衆化」と伝統的な琴の間の矛盾と衝突を挙げ、芸術的な表現、美学意識、音楽の形態及び芸術の価値などの角度から分析し、琴の伝承の問題を指摘するものである。

現在、翻訳を遂行中であり、完成し次第、諸手続きを経て、当センターのホームページにアーカイブとして公開する予定である。

武内恵美子



『古楽寻幽 吳釗音乐学文集』